

令和 8 年 第 6 回  
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和8年5月27日（水）

開会午後1時30分、閉会午後2時00分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1番 大西 ゆかり

2番 松岡 理

3番 坪池 宏

4番 黒田 卓

5番 牧田 和樹

教育長 廣島 伸一

IV 説明出席者

教育次長

矢野 康彦

教育次長・教育みらい室長

田中 宏育

教育次長

初田 正樹

参事・教育企画課長

森安 祐成

教育参事・教育みらい室小中学校課長

木下 貴子

教育参事・教育みらい室県立高校課長

宮池 秀洋

教育参事・教育みらい室特別支援教育課長

魚津 直美

参事・教育みらい室県立高校改革推進課長

丸田 祐一

生涯学習・文化財課長

中川 武志

教職員課長

水上 優

保健体育課長

前川 秋人

教育みらい室課長（高校教育充実強化担当）

武末 宏和

教育みらい室課長（特命担当）

江上 有紀

教育みらい室課長（児童生徒支援担当）

金場 安史

教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）

岩田 理恵子

生涯学習・文化財課課長（青少年・家庭成人教育担当）

小川 理香

保健体育課課長（食育安全担当）

川田 康弘

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時30分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和8年4月27日開催の令和8年第5回富山県教育委員会会議録

会議録閲覧

廣島教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 報告事項

(1) 令和8年3月高等学校卒業者の就職状況について

教育みらい室県立高校課長から説明した。

- 3 今後の教育委員会等の日程について  
教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項

午後 1 時 47 分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項ただし書の規定に基づき、議案第 19 号および議案第 20 号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第 19 号 令和 9 年度使用義務教育諸学校用教科用図書の採択に係る諮問事項の件

議案第 20 号 令和 8 年度富山県教科用図書選定審議会委員委嘱（任命）の件  
教育みらい室小中学校課長から説明し、原案のとおり可決した。

なお、非公開で審議した議案第 19 号および議案第 20 号については、適切な時期に公表することを決定した。

5 議事

○報告事項(1)関係

〔牧田委員〕

- ・毎回この報告がある度に言っているが、高校生が社会に出て少なくとも 3 年くらいは内定した企業でずっと勤めているのか、もしくはどこかで退社してしまっているのかという動きは必ずつかんでいていただきたい。各学校の卒業生がどのくらい継続して勤めていることができているのか、トレースをお願いしたい。

〔教育長〕

- ・おそらく知事部局の商工労働部とも連携して私たちも見えていくことになると思う。またそこは話をし確認していきたい。

〔松岡委員〕

- ・今のことに関連して質問だが、特別支援学校の卒業後、就業がうまくいなくて再就労という場合には出身校の先生方が骨を折ってくださるということを聞いているが、こういったことは卒業後何年までしてくれるという決まりはあるのか。

〔教育みらい室県立高校課長〕

- ・特に決まりはないが、卒業生が困って学校に来たら、我々としては話を聞いて、与えられる情報は提供している。

〔松岡委員〕

- ・特に決まりはなく、気持ちでやってくださっているということか。

〔教育みらい室県立高校課長〕

- ・そのようになる。

〔教育みらい室特別支援教育課長〕

- ・特別支援学校は、富山県では卒業してから 3 年間を目処に、アフターケアという形で職場を回ってどのような状況かを確認している。そのために特別支援学校地域就労支援アドバイザーとして、職場定着とともに職場の開拓等の支援もあわせてしていただく人材を配置している。

〔教育長〕

- ・一般的に言うと、学校を離れるとそこは職業安定分野の、国の労働施策のほうに入っていくことになるのと思うが、特別支援やその関係については、たとえば障害者雇用の関係もあるだろうと思

うので、そういうところについては行政としても対応していくことになるのかと思う。

〔坪池委員〕

- ・計算すると、令和8年の就職希望者に占める卒業者の割合は17.6パーセントで、その前年は18.3パーセントである。高校生の卒業生が7,583人いて、就職希望者が1,338人というのは、私の感覚では割合としては少ない気がする。個人が自由な選択をしていることはそれで良いと思うが、参考のために、たとえば全国就職希望者の割合や、富山県のこの状況は全国に比べて何か特別な特徴があるのか、分かれば聞かせてほしい。

〔教育みらい室県立高校課長〕

- ・データを持ちあわせていないので、答えかねる。

〔坪池委員〕

- ・気になるところなので、この場ではなくてもいいので私のところに教えてほしい。

〔教育長〕

- ・2年前に私が教育委員会に来たときは、約2割就職ということを実際の県立高校課長から聞いた。今おっしゃるとおり、確かに計算してみると17.6パーセント、その前が18.3パーセントという数字だと、やはりトレンドがあるのかと思う。あわせて全国的にどうなのか。あとは大学進学率が50パーセントくらい、残りは専門学校というようなイメージ等になると思うが、数字のトレンドについては傾向を抑えるようにしていきたい。

〔坪池委員〕

- ・富山県の高校生にとっての就職先は、全国的に見て悪い条件ではないと思う。

## ○その他

〔牧田委員〕

- ・午前中に日本海学推進機構の会議があった。現状、財政的な措置も含めてシュリンク傾向にあるのだが、日本海学はとても重要なので少し対応策を整理してほしいという話が出て、全くそのとおりで思った。たとえば義務教育のふるさと教育というのがあるが、そこで日本海学というほど難しい物じゃなくても、逆さ日本地図を見せて、富山県というのはまさに日本海を通して沿岸諸国とつながっていて影響があるんだよというような知識を、ちゃんと子どもたちにも教育すべきではないかと思った。そこで提案だが、ぜひ教育委員会のほうでそれを取り入れるようなことを考えてほしいと思っている。昔やっていた若潮丸に乗船させたりということを今は実はやっていない。子どもたちにとって富山県として日本海学を進めていくことにどんどん距離が遠ざかっていて、縮めていくのは教育委員会が一番適切ではないかとずっと考えていたので、今日ここで提案させていただく。

〔教育長〕

- ・行政的な視点から出てきたということもあって、今で言うと前々任の知事が提唱しやられたというように記憶している。そういった遺産を県としてどのように引き継いでいくか、トータルとして考えないといけないところかと。事務局のほうでも所管がころころ変わったりしていたという事実もあろうかと思う。私も2年間所管させていただいたが、実際に話を聞いてみると大変面白いこともやっているのだが、そういったところが認知されているのかという問題もあったような認識はしているので、それはどういったことが言えるのか、知事部局とも話しながらやらせていただければと思う。

午後2時00分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。